８／２１　校長室より №267

熱中症も心配ですが、落雷にも気をつけなければなりません。先週、川西町で落雷のために亡くなった方がいらっしゃいます。夕方は大気が不安定になり、雷が発生する危険が高まります。もし、下校時に雷が近くで起こった場合には、学校に留め置くこともありますのでご承知おきください（マメールでお知らせします）。

本日の帰りの会で、以下のことを指導しましたので、各ご家庭でも話題にしていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

雷から身を守るには

雷が迫ってきた時に避難するには？ 安全な場所と危険な場所

○安全な場所

外にいるときに雷が鳴り始めたら、まずは建物の中に避難しましょう。

特に鉄筋コンクリート建築の大きな建物が安全です。

木造建築でも安全は確保できますが、雷の電流が構造材を介して伝わる恐れがあります。

周囲にそのような建物が無い場合は車の中に避難しましょう。

万一車に雷が落ちても、電流は車の外側を通って地面に逃げますので、車内にいれば安全です。

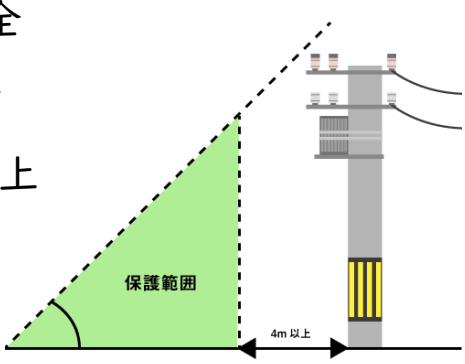
×危険な場所

高い木の近くはとても危険です。最低でも木の幹、枝、葉から 2m 以上離れましょう。

雷の電気は外壁を伝うので、建物の軒下での雨宿りも危険です。また、雷の時に傘をさすのはやめましょう。自分自身が避雷針になり、雷を呼び寄せるきっかけになってしまいます。

周囲に安全な場所が無い場合

周囲に建物も車も無い場合など、周囲に安全を確保できる場所が無い場合は、電柱、煙突などの頂点を 45 度の角度にみる範囲で 4m 以上離れた「保護範囲」に退避しましょう。



また、電線は避雷針の役割を果たすため、電線の下に入ることでリスクを大きく下げることができます。

雷しゃがみ

それでは、電柱も無い開けた土地で雷に遭遇してしまった場合は、どのように対処するのが適切なのでしょうか？ そんな時は、とっさに身を守る「雷しゃがみ」というポーズをとりましょう。

数人いる場合は、お互いに 30m 以上離れましょう。

雷しゃがみの姿勢

1 頭を下にかがめる（できるだけ姿勢を低くする）
2 両手で耳をふさぐ（鼓膜が破れるのを防ぐ）
3 足の両かかと同士を合わせる
4 つま先で立つ

両足のかかとを合わせる（付ける）理由は、万が一、雷の電気が足から進入しても上半身まで流れないように、片足から反対側の片足へ、U ターンさせて流し返すためです。また、つま先で立つ理由は、地面との接点を可能な限り小さくして、電気の侵入を最小にするためです。

リュックサックなどの荷物は、地面に下ろします。できるだけ姿勢を低くすることが大切ですが、腹ばいになるのは地面との接地面積が大きくなるので NG です。